

令和2年度 ふるさと教育推進事業

出雲教育事務所管内

特色あるふるさと教育事例

学校名	出雲市立今市小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
特支	自立活動	和太鼓に親しもう	出雲で和太鼓の演奏や普及に取り組んでおられる方と関わることで、地域のために力をつくしている人の生き方に触れる。

①取組の概要

- 1) 和太鼓の演奏の方法について学ぶ。
- 2) 山根浩先生に助言・指導してもらいながら、1つの曲を演奏できるように、繰り返し練習に取り組む。
- 3) 練習した成果を校内で発表し、和太鼓のよさを演奏を通して伝えていく。
- 4) 和太鼓の指導をしていただいた山根浩先生に感謝の気持ちを手紙で伝える。

②ふるさと教育の視点にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 1) 和太鼓の演奏に課題を持って取りこませる。
 特別支援学級の児童は、毎年和太鼓の演奏に取り組んでいる。昨年の曲をそのまま演奏するのではなく、学年に合わせてリズムやパフォーマンスを変えているので、児童一人一人が自分の目標や課題を持って活動に取り組むことができるようにしている。
- 2) 練習した成果を校内で発表する。
 今年度は新型コロナウイルス感染症のため、校内の友だちに向けての発表はできなかった。しかし自分たちが練習したことを保護者の方に向けて発表することで、肯定的な評価を得られるようにし、さらにふるさとへの愛着や誇りを高められるようにした。
- 3) 感謝の手紙を書く。
 毎年和太鼓を教えてくださっている山根先生に感謝の手紙を書くことで、地域の人との関わりが更に深まるようにしている。

③児童・生徒に見られた変容

- 1) 和太鼓の練習に真剣に取り組んでいくことを通して、山根浩先生とコミュニケーションを取ろうとする姿が見られた。
- 2) 自分なりの目標をもって取り組むことで、児童が毎日の練習にも意欲的に参加することができた。
- 3) 神戸川太鼓について家庭でも話題に上がり、和太鼓の練習を楽しみに子どもが学校に通っているという保護者からの声があった。
- 4) 5年生の児童が6年生の演奏を見て、「来年は自分たちががんばる」と最高学年になる意識をもつようになった。



特色あるふるさとと教育事例

学校名	出雲市立東小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
5	総合的な学習の時間	水プロ（環境学習）	東地区にある川や宍道湖に直接接することにより、東地区の自然環境や環境問題への意識を高める。

①取組の概要

- 1) 水に関する安全学習と、調査内容の決定。
- 2) 地域の川に出かけて行き、生物・水質調査を実施。
- 3) 宍道湖のしじみが持つ浄化能力の観察。
- 4) 宍道湖端に落ちているゴミの調査。
- 5) 野鳥観察とラムサール条約について知る。
- 6) 調査で分かったことをまとめ、学校内に伝える。

②ふるさと教育の視点にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 1) 学校近くの川、宍道湖、グリーンパークなど、ふるさとにある「もの・こと」と直接触れ合い、実感をもって 捉えられるようにし、地域の実態や課題とともに、自分にできることを考え、愛着を養う。
- 2) 地域の川や宍道湖にいる生き物やその周りの様子（ゴミや植物）について、五感を通して観察することで、人と自然との関わりの深さを考えるとともに、自分たちに課せられている課題も考える場にする。
- 3) 自分たちの見つけた「ふるさとのよさ」に加えて、「ふるさとの課題・改善策」を考察し、発信することで、ふるさとへの責任をも高めることができるようにする。

③児童・生徒に見られた変容

- 1) この学習以外の場でも積極的に自然環境を考えようとする姿が見られるようになった。
- 2) 他の学習においても、「直接触れてみよう」とか、五感を使って観察しようとするなどの学習態度の変容が見られた。
- 3) あるがままの実態観察にとどまるだけでなく、課題や改善策についても考察しようとする態度が芽生えた。



特色あるふるさとと教育事例

学校名	出雲市立稗原小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3	総合的な学習の時間	稗原の神楽を受けつごう	地域の方から神楽の歴史を学んだり神楽の体験をしたりする活動を通して、ふるさとのすばらしさを知り、ふるさとを大切にしようとする気持ちを育てる。

①取組の概要

- (1) 伝統文化である稗原の神楽について神楽保存会の方からお話を聞いた。
- (2) 神楽保存会の方々の指導のもと、神楽の道具作り（幣串・しめ縄）を体験した。
- (3) 神楽（「四方剣」「八乙女」の舞、奏楽）を教えたいただき、練習した。
- (4) 学習発表会で、神楽について学んだことを発表したり、神楽保存会の方に支えていただきながら神楽を舞ったりした。
- (5) 神楽保存会の方々へお礼の会を計画し、実施した。



②ふるさと教育の視点にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- (1) 神楽保存会の方々に直接指導を受けることで、地域の方とのつながりを深めたり、稗原に受け継がれてきた神楽のすばらしさを肌で感じたりさせる。
- (2) 神楽について学んだことや神楽練習の成果を学習発表会で発表させ、たくさんの人にふるさとのすばらしさを伝えさせる。そして、全校の子ども達のふるさとへの愛着や誇りがさらに高まるようにする。
- (3) お礼の会を計画し、ゆっくりと話したり、児童の手作りお菓子を食べたりし、地域のみなさんと心をつなぐ。心をこめて、カレンダーを作り、使っていた。

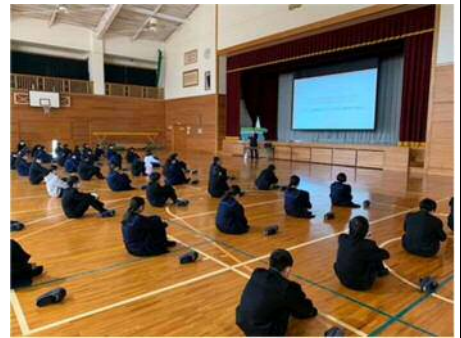
③児童・生徒に見られた変容

- (1) 伝統を受け継いできた神楽保存会の方の話聞くことで、神楽の歴史や道具などについて知ったり、神楽を伝えていくことのすばらしさに気づいたりすることができた。
- (2) 神楽保存会の方との道具作りや神楽練習を通して、積極的にコミュニケーションをとろうとする姿が見られた。
- (3) 練習に真面目に取り組むことができた。神楽を発表したことで達成感をもち、自分たちのよさに気付くことができた。また、ふるさとへの愛着や誇りをさらに高めることができた。
- (4) 地域の皆さんととても仲良くなり、笑顔で話し、さらに心をつなぐことができた。



特色あるふるさとと教育事例

学校名	出雲市立第二中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
1	総合的な学習の時間	『ふるさと出雲とわたし』 ～働く人々に学び、今後の生き方を考える ふるさと出雲で活躍する人々の生き方に触れて～	ふるさと出雲のもつ良さを市内外の人に発信するために、ふるさとの「ひと・もの・こと」に積極的にかかわろうとする。
<p>① 取組の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ふるさと出雲の「よさ」を考える 2) 地域講師による事前講話 3) フィールドワーク（出雲大社・大社神門通り） 4) レポート作成と礼状書き <p>② ふるさと教育の視点にせまるための授業づくりのポイント（工夫）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域講師との打合せ <ul style="list-style-type: none"> ・ 2月10日：神門通り若者会会長にご講話いただいた。事前に、講話内容や生徒との対話方法など細かく打合せ、「大社神門通りの復活と地域への思い」を話していただいた。 ・ 2月26日：出雲市商工会議所青年部の地域講師6名の方にご講話いただく。事前に講話内容など細かく打合せ、生徒の学びを有効なものにすることができた。 ・ 3月15日：「大社研修」と題して、フィールドワークを行う予定。その際、神門通りの25店舗においてインタビューを行わせていただく予定。若者会会長を通じて店舗の方々と事前に調整を図った。 2) 「学習ガイダンス」における支援策 <p>地域講師の講話を聴く前に、生徒一人一人が家族や身の回りの人にインタビューを行い、“働くことの大変さや意義”を聞いたり、“出雲で働くことへの想い”について考えを聞いたりする活動を行った。生徒は、「都会のような派手さはないけれど、人のやさしい・おだやかな・自然を大切にしている出雲」という「良さ」を導いた。</p> <p>③ 児童・生徒に見られた変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前講話を通して「ふるさと出雲」を代表する出雲大社について、生徒はその歴史を知ることができた。また、その歴史とともに栄えた神門通りの歴史や復活までの歩みを知ることができた。 ・ 事前インタビューする内容を考える際に、主体的・積極的に調べたり、自らの将来と関連させたりする姿が見られた。 			



特色あるふるさとと教育事例

学校名	出雲市立平田中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3	総合的な学習	「ふるさと平田の2040年を考えよう」 ～私ならこうする！未来の平田～	出雲市内の事業所とそこで働く方々に積極的にかかわろうとする

① 取組の概要

- ・自分のふるさと「平田」について考える
- ・平田で働く方々の話を聞く
- ・2040年の平田について考える
 - ①学習班で（4人～5人）でテーマを決める
 - ②情報収集・レポート作成
 - ③発表会
- ・社会のマナーを学ぶ



② ふるさと教育の視点にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- ・平田の未来を考え、ふるさと平田地域についての理解を深める。
- ・20年後の社会を考えることで、将来に夢や希望を持ち、自分の進路選択に繋げる。
- ・探求活動を通して、課題の発見、情報の収集・分析、計画
- ・立案する能力を養う。



③ 児童・生徒に見られた変容

- ・地域で活躍しておられる方々に講話していただき、地域のよさを知り、ふるさとについて改めて考える機会となった。
- ・20年後の平田を考えることを通して、将来の夢や希望をもって進路選択につなげることができた。
- ・マナーについて講話を聞くことで、生涯にわたり人と関わる場面での接遇の大切さを知るとともに、日頃のあいさつや話し方など改善する態度を養うことができた。

特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立掛合小学校		
学年	教科等	单元名	ふるさと教育の視点
6	国語 総合的な 学習の時間	掛合のプロフェッショナル に学ぶ	自分達のふるさとの様々な職業に携わる方から仕事内容や思いを聞いたりすることで、ふるさとの理解を深めるとともに、自分の将来や生き方について考える。

①取組の概要

- 1) 国語科「プロフェッショナルたち」を読み、紹介されている3人のプロフェッショナルの考え方や生き方について読み取る。
- 2) 地域医療に携わる医師から話を聞く。(総合的な学習の時間)
- 3) 「掛合のプロフェッショナルたち」として地域の様々な職業に携わる6名の方から、仕事内容や思いを聞いたり質問したりし、自分の将来や生き方について考える。(総合的な学習の時間)
- 4) 「自分の考えるプロフェッショナルとは」について文章にまとめる。(国語科)

②ふるさと教育の視点を持った授業(活動)にせまるための授業づくりのポイント(工夫)

- 1) 国語の「プロフェッショナルたち」を読み取り、講師から話を聞く時のポイント、「その職業に就くきっかけ」、「プロフェッショナルとして大事にしていること」、「これまでに経験した失敗や困難をどのように乗り越えたのか」、「プロフェッショナルとしてのターニングポイント」などを共通理解しておく。
- 2) 自分たちの身近な「ひと」である、「掛合のプロフェッショナルたち」の話を聞いた上で、国語の単元のゴールである、「自分の考えるプロフェッショナルについて文章にまとめる」ことを伝える。
- 3) 医療、政治、福祉、教育、林業、工業と、様々な分野の講師を依頼することで、幅広い話を聞くことができるようにする。
- 4) 「掛合のプロフェッショナルたち」では、自分が聞いてみたい3人の話を選んで聞くこととし児童の興味、関心を高める。

③児童・生徒に見られた変容

・自分たちに身近なプロフェッショナルの話を聞くことで、「仕事を楽しみたい」「その仕事に誇りをもちたい」「人を幸せにすることにはたくさんのやり方がある」「努力が一番大切だと思っていたけど、どれだけ人に喜んでもらえるかが大切だと思うようになった」「学ぶということはどの職業でも必要だと思った」「人の役に立つ仕事に就きたい」など、仕事に対する考え方や、これからの自分の行動について、振り返ったり意欲を高めたりする姿が見られた。



特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立三刀屋中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
1	総合的な学習の時間	地域学習UNNAN・B	未来にも伝えていきたい雲南市の歴史、自然、文化を調べ、実際に訪問をし、ふるさと雲南への興味・関心を高める。

① 取組の概要

- 雲南市について簡単に学習したのち、研修地について調査し、質問を考える。
- 研修地を訪問し、知識を深めるとともに研修地や活動を守り続けている地域の方の思いを知る。
- 同級生に対して、伝えていきたい雲南市の歴史、自然、文化についてのプレゼンテーションを行う。

② ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 地域の方々との連携
地域の方々に講師を依頼し、雲南市の歴史、自然、文化について興味・関心をもてるようにする。訪問後の礼状作成を通して学んだことを確認する。
- 発表の場の設定
訪問することで学んだ知識や地域の方々の思いを、プレゼンテーションを通して共有し、ふるさと雲南を愛する心情を育てる。
- 活動の振り返り
各学習時間、単元の振り返りを通して、ふるさと雲南への愛着を高める。

③ 児童・生徒に見られた変容

実際に現地を訪問し、講師の方の話の聞いたり、見学したり、体験させていただいたりすることを通して、未来に伝えていきたい雲南市の歴史、自然、文化を身近に感じることができた。またその経験と地域の方の思い、それらを通して考えたことを、プレゼンテーションで同級生に伝えることで、雲南市の歴史、自然、文化の価値を共有し、ふるさとのすばらしさに気づくことができた。



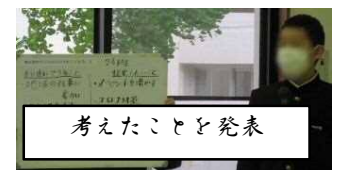
特色あるふるさと教育事例

<p>学校名</p>	<p>奥出雲町立阿井小学校</p>	
<p>学年</p>	<p>主な教科等</p>	<p>主に関わる単元名</p>
<p>4年生</p>	<p>総合的な学習の時間 図画工作</p>	<p>奥出雲和牛のヒミツ</p>
<p>ふるさと教育の視点</p>	<p>牛農家の見学や子牛品評会への参加等を通して地域の農業の良さを知るとともに、守り続けているふるさとの人やものに感謝と誇りをもつことができる。</p>	
<p>①取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○牛農家の体験学習や見学を通してふるさと「仁多牛」の良さを感じ取る。 ○牛農家の見学や子牛品評会に参加しながら学習を進めることで、生産者の仁多牛への思いや願いを考える。 ○学習で学んだことを新聞にまとめたり、この学習にかかわっていただいた地域の方へお礼の手紙を書いたりすることで感謝の気持ちを伝えた。 ○奥出雲和牛の良さや牛それぞれの特徴を捉え、水彩画で表現する。 <p>②各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）</p> <p>※ふるさと教育のねらい（ふるさとへの愛着や誇りの醸成、地域に貢献しようとする意欲の喚起）にせまるための授業（活動）の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域講師との打ち合わせを行い、ねらいを達成するために、いつ、どのように「ひと・もの・こと」と出会う場を設定するか吟味した。また、子ども達の興味や関心が何にあるのかを、地域講師に細かく伝えた。 ○牛農家の方のお宅に伺い、実際に牛の世話をさせていただいたり、良い牛の見分け方を教わったりした。そして、教えていただいたことをもとに、「お気に入りの牛」を一頭決め、写生した。牛や牛農家の方への具体的なイメージを抱くとともに、牛への愛着を醸成することに繋がった。 ○子牛品評会（共進会）で実際に子牛を審査し、牛農家の方を表彰した。 ○学習を通して学んだことを新聞にまとめたり、地域の方へ感謝の気持ちを手紙で伝えたりした。 <p>③児童・生徒に見られた変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○牛農家の方の牛に対する思いや熱心な姿にふれ、町外の人へ奥出雲和牛の良さを伝えたいという意識が高まった。 ○阿井地区は、仁多牛を育てるための良い環境が整っていることに気付くことができた。 ○奥出雲和牛に対する理解が深まり、地域に対する愛着や誇りを醸成することにつながった。 		



特色あるふるさと教育事例

学校名	奥出雲町仁多中学校	
学年	主な教科等	主に関わる単元名
1	総合的な学習の時間	ふるさと再発見 ～奥出雲町と松江の比較を通して～
ふるさと教育の視点	地域のひと、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、地域の特徴やよさが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付くとともに、よりよい地域になるために自分たちがこれからできることを考える。	
<p>①取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 松江班別自主研修において、自分たちの班でテーマ(課題)を設定し、奥出雲町と松江市を比較しながら調べる学習である。その際には図書館資料だけでなく、実際に現地に行ったり、地域の人にインタビューをしたりする活動も取り入れた。 夏期休業中に班員で分担しながら奥出雲町のひと・もの・ことを調べた。また、松江市の各施設へ事前アポをとり、班で行動計画を立てたうえで現地調査(インタビューや施設見学)を行った。 調べた奥出雲町と松江市のひと・もの・ことについて模造紙にまとめるとともに、学習を通じて考えた奥出雲町のために「自分たちができること」「提案したいこと」を発表した。 		
<p>②各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業(活動)のポイント(工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校区における様々なひと・もの・ことについて、1学期に生徒全員が学年全体に向け発表を行うことで、身の回りの地域に数多くの魅力的な資源があることに気付けるようにした。 取り組むテーマ(課題)は、1学期の学習をもとにラベルワーク等の思考ツールを活用しながら自ら設定した。また、奥出雲町と松江市を「比較」することにより、奥出雲町のよさや特徴を考えやすくした。 ワークシートに自らの学習を記録しておくことで、調べて分かったことに対して次の問いを生み出すことを促し、探究的プロセスを強化できるようにした。 学習内容について、中間発表や最終発表の場面で地域の人からコメントや意見をもらう活動を通じて、探究的学習における新たな視点を獲得するとともに、地域の人に学習を支えていただいているという気持ちを持たせた。また、学習をまとめた模造紙については中央公民館に掲示していただき、広く地域の方へ学習内容や生徒の意見をしてもらうようにした。 		
<p>③児童・生徒に見られた変容</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自分たちにできること」として、「地域の行事に参加する」「地産地消になるよう家の人に買い物のときに頼む」「地域でコロナ対策をして安全を守っている人がいるから、自分もコロナ対策をする」「ボランティアで掃除をする」などの意見が出た。自分たちが調べたことや他の班の発表にあった地域の方の思いや地域を守るための行動を根拠としたものが多く、これまでの学びを根拠に自分の考えを広げていくことができていた。 また、生徒の振り返りからは、他者や地域の人とのかかわりによって学習が深まったことを実感した様子が見られた。 <p>【生徒の振り返り】 「授業の中で改めて知ったところやこれからの時代に生かしたいと思ったことがたくさんあったので、よい学びになったと思います。そして、地域の方々にたくさんアドバイスや協力をしてもらった結果だと思ったので、来年にもぜひ生かしたいです。」</p>		



特色あるふるさと教育事例

学校名	飯南町立頓原小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
6	総合的な学習 の時間 国語	頓原のまちづくりを考えよう	・地域の魅力や課題に気づき、課題解決に向けた方法について調べる学習を通して、ふるさとへの愛着を深めるとともに、自分が地域のためにできることを実践しようとする意欲を高める。

1 特色ある取組の概要

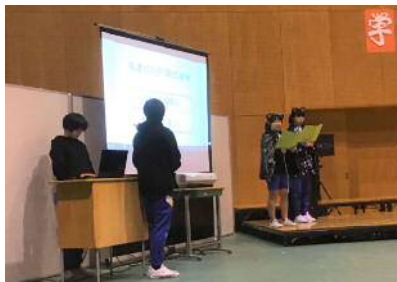
- ・飯南町の魅力と課題から、飯南町のよさを伝えるために何ができるか考えた。
- ・飯南町の魅力と課題について、インタビュー調査を行った。
- ・飯南町の魅力をさらに知るために、遺跡や神社などの地元の歴史について調べた。
- ・調べた飯南町のよさについて、学習発表会を通して地域の方に向けて提案した。
- ・飯南町の小・中・高校生・行政の大人が集う「ふるさとシンポジウム」（リモート）で、飯南町の課題を解決するための取り組みについて意見交換をした。

2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）

- ・自分たちの課題として考えられるように、飯南町の町づくりを題材にした。
- ・プレゼンテーションソフトを活用してまとめたり、学習発表会を通して、未来の町を提案するという場を持つたりすることで、児童の意欲喚起を図った。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

- ・飯南町の魅力と課題のインタビュー調査後、年代ごとに魅力と課題を分けてまとめたことで、自分たちとは違う魅力と課題があることに気づき、未来の飯南町・頓原の姿を想像しながら、課題解決に向けて、自分たちができることを考えることができるようになった。
- ・人々が住みやすい町、地域の人々が再び帰ってきやすい町など自分たちが大人になった飯南町・頓原の10年後の町の未来を想像し、自分たちがそんな未来を創りあげたいという思いを持った。
- ・飯南町・頓原の魅力を再確認し、地域のことが今まで以上に好きになった児童が増えた。



特色あるふるさと教育事例

学校名	飯南町立頓原中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
全学年	体育	スキー	・地域の自然、人材を活用した学習を通して、地域を大切にする心情を養う。

1 特色ある取組の概要

県内でもまれな雪が多い自然環境の中で、生徒たちは生活している。近くには、その自然環境を生かしたスキー場もある。しかし、10年前と比較すると生徒たちがスキー場へ足を運ぶ回数は激減しているようである。中には、スキー場へ行くのは、この小中学校でのスキー教室の時だけという生徒もいる。そこで、昨年度から、このふるさと飯南町の魅力の一つであるスキー場（雪山）に毎年全校生徒で出かけることで、ふるさとの壮大な自然環境を体感する機会、地域の方からの話を聞く機会を増やし、ふるさとを大切にする心情を養う取り組みを行っている。（昨年度は、悪天候のため中止）

2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）

単純に体育の授業における技能の向上を目指すのではなく、事前・事後に地元でスキー場があって生涯にわたってスキーに親しむことのできる素晴らしさなどふるさと教育につながるガイダンスを行い、ふるさとに思いをはせる機会を設けている。その上で、スキー教室の際に講師の方に、このふるさと飯南町の壮大な自然環境の素晴らしさなどにも触れてもらうことで生徒の心情を揺さぶっていただくようにしている。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

昨年度は、悪天候のため企画だけにとどまったが、ふるさと教育につながる「全校スキー教室」を掲げたこと、今年度もその「全校スキー教室」の実施を計画したことで、今年度の3年生の総合的な学習の時間の「ふるさと飯南町に関する個人研究」の中に、飯南町の魅力の一つであるスキー場の活性化について研究したものもあった。この生徒は、課題を発見し、どうすれば活性化できるかインタビューしたり、アンケートを取ったり行動した。今年度の「全校スキー教室」よりも前の取り組みであったが、昨年度の「全校スキー教室」前後のガイダンスなどが影響してこうした取り組みにつながったと考える。

また、今年度の実施においては、久々に雪が多く、生徒たちは、このふるさとの自然環境の大きさに改めて気づくとともにふるさとへの愛着を感じた生徒が多かった。2年生の中には、来年度の個人研究のテーマを探ること（課題発見）ができた生徒もいたようである。

